

あ
明けて
ぶんかがんねん
文化元年（一八〇四）の
一月悲しい知らせが
届きました…

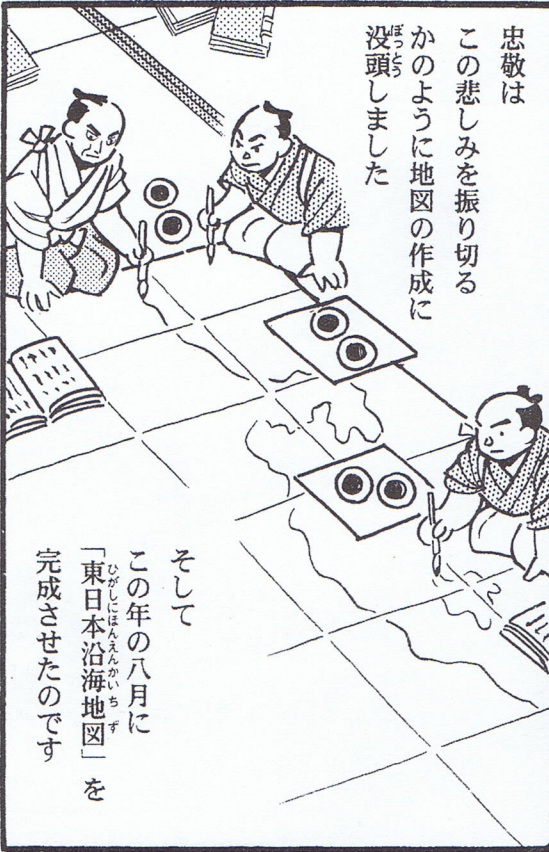


よとき
至時が四十歳
という若さで
急死したのです

先生—



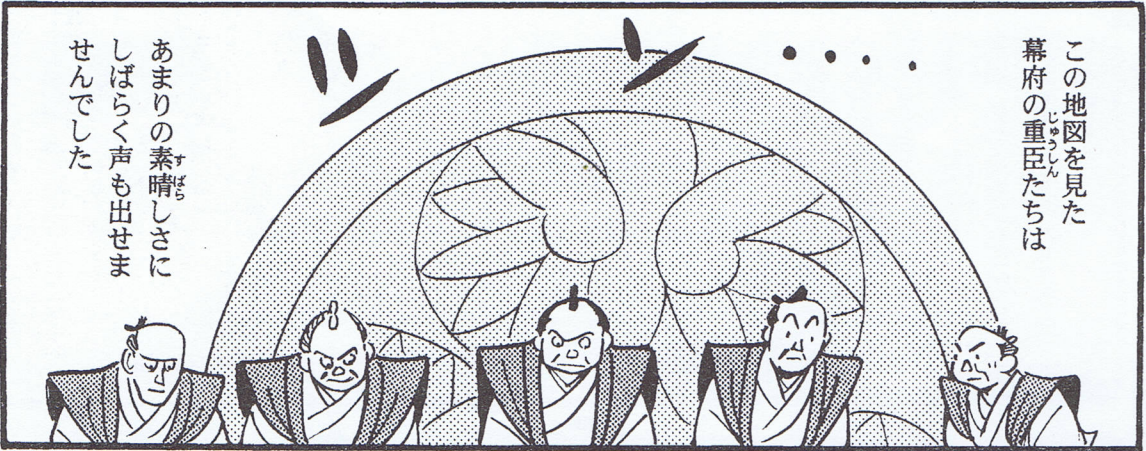
忠敬は
この悲しみを振り切る
かのように地図の作成に
没頭しました



そして
この年の八月に
ひがしにはえんかいちす
「東日本沿海地図」を
完成させたのです

この地図を見た
幕府の重臣たちは

あまりの素晴らしさに
しばらく声も出せま
せんでした



また
しょうぐんいえなり
将軍家育は…

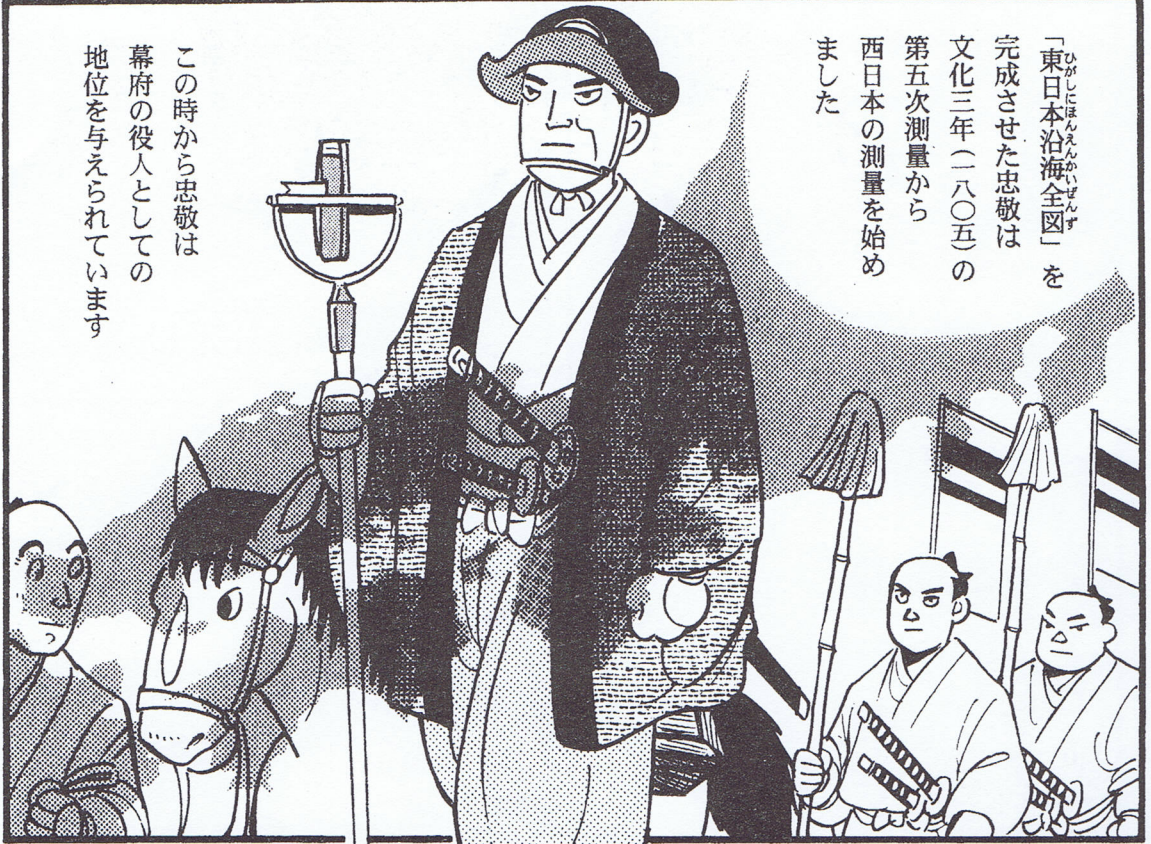
ここに
日本がある…

そう一言つぶやいて
感動に胸をつまらせたとい
います

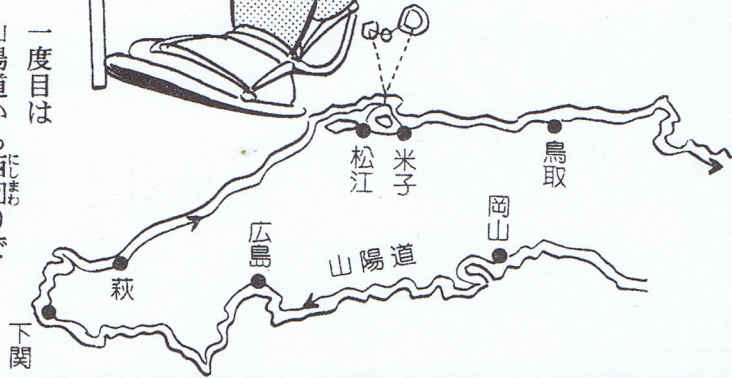


「ひがしにほんえんかいぜんず東日本沿海全図」を
完成させた忠敬は
文化三年（一八〇五）の
第五次測量から
西日本の測量を始め
ました

この時から忠敬は
幕府の役人としての
地位を与えられています

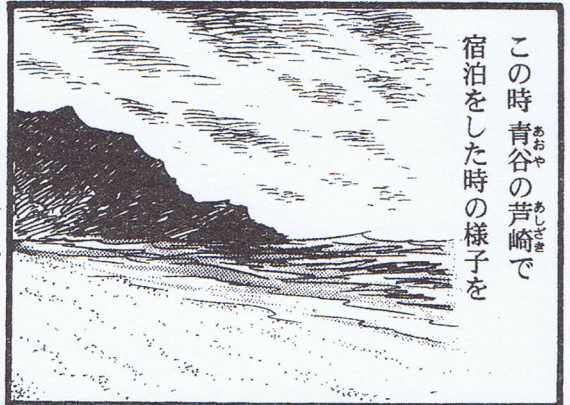


西日本の測量では
第五次測量と第八次測量で
二度鳥取にきています



一度目は
山陽道から西回り
松江まできて松江から
米子に入り
伯耆因幡の測量を終え
岩井郡から但馬へ抜けて
いきました

この時 青谷の芦崎で
宿泊をした時の様子を



芦崎の商人石井世左衛門が
書き残しています

それによると
忠敬一行は米屋伝兵衛宅と
鍵屋磯七宅に別れて泊り

米屋伝兵衛宅に幕を張り
五・六間の開いをつくると

日没後から
「象限儀」を使って
観測をしていたと
いつています

また 石井世左衛門は
鍵屋磯七宅を訪れ

測量隊の
坂辺定兵衛に
天文測量について
質問をしました

質問には親切に
答えてくれて…

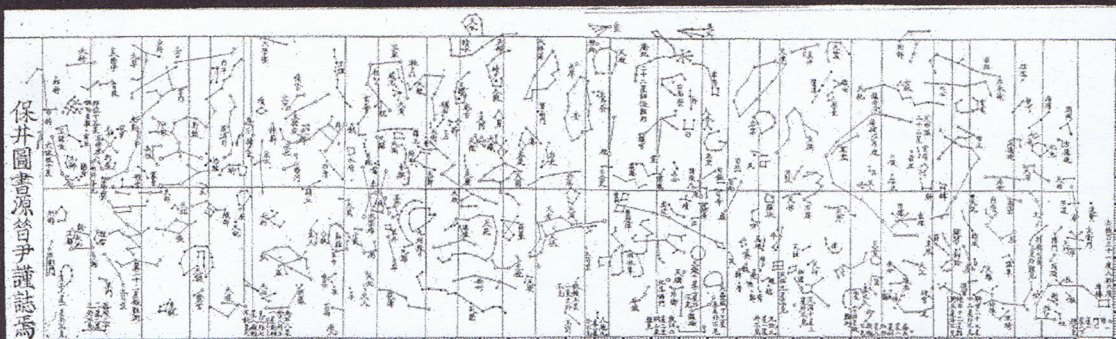
一介の商人に
夜半までいろいろな
話を聞かせてくれたと
感激しています

この様子からも
測量隊の一行は一般庶民に
開けた応対をしていて
各藩の恩恵とは別に
庶民からは歓迎をされたと
推察されます

この古星図は
渋川春海による
「天文成象図」です

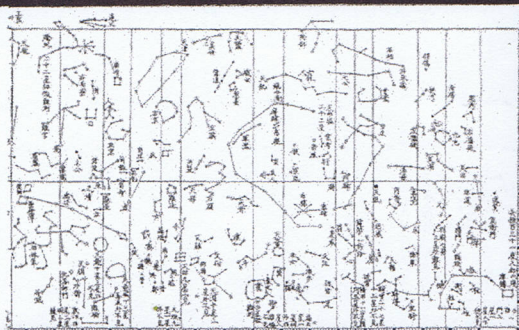
これと同じ
古星図が鳥取にも
存在します…

正確には
「天文成象図」の
写しです
しかし前部分の
約半分が空白に
なっています



保井圖書源管尹謹誌焉

所有者は伊能忠敬研究会の
上田勝俊氏ですが
これは伊能忠敬の置き土産
ではないかと言っておられ
ます



忠敬の測量隊は
第五次から七年後の
文化十三年に
第八次測量で九州を
回って鳥取入りを
しています

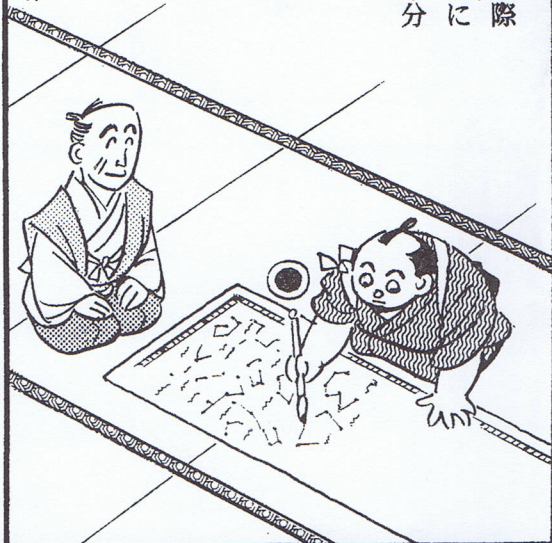


上田氏のご先祖は
上田半兵衛といって
河原の隣の袋川原の
宗旨庄屋という家柄
でしたので…



忠敬一行が河原泊りの際
何人かが上田半兵衛宅に
泊ったということは十分
に考えられます

その中のひとりが
天体観測のために
もっていた古星図を
半兵衛さんのために
写し書きをしていたが



途中で
筆を置く
ような



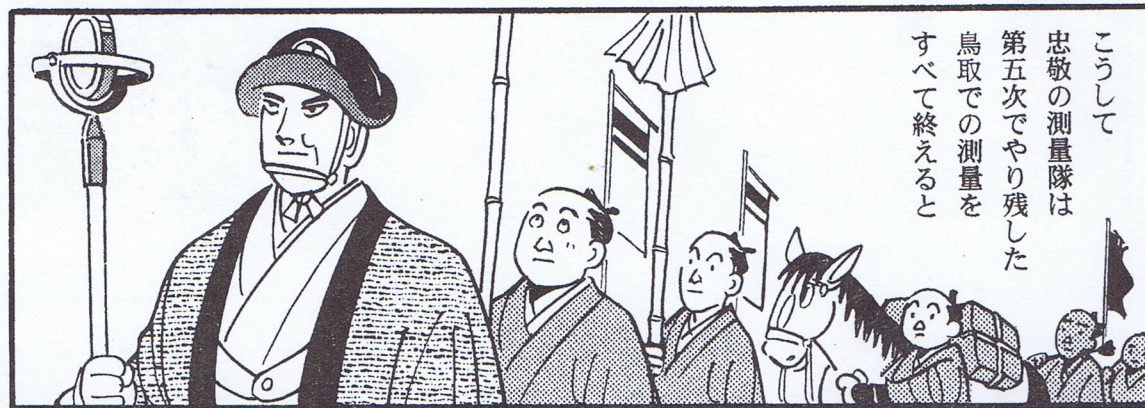
急用が生じた
のではないかと
推測されています



そして
この白紙の部分に
当時何があったのかと
思いを巡らすことは
とても楽しいと語って
おられます



こうして
忠敬の測量隊は
第五次でやり残した
鳥取での測量を
すべて終えると



ミステリアスな
一枚の古星図を置き土産に
河原―用瀬―智頭―駒帰
―野原印から黒尾峠を越え
て津山方面に向かいました

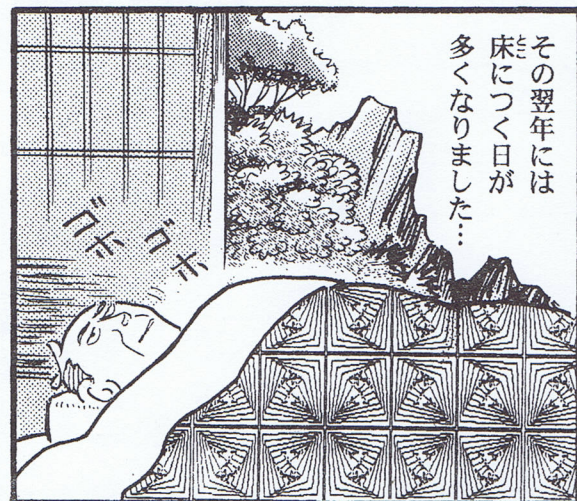




文化十三年（一八一六）
江戸府内の測量をもって
忠敬の十六年間にも及ぶ
測量の旅は終了しました



翌年の
文化十四年（一八一七）から
たくさんさんの門人と弟子を指揮
して 日本全体の地図の作成
に取りかかりました



その翌年には
床につく目が
多くなりました…



この時
七十三歳の高齢に
達していた忠敬は…



伊能忠敬は
静かに七十四年の
生涯を閉じました



そして
文政元年（一八一八）
桜の花びらの
散る中…



「夢追い人」伊能忠敬の
十六年にわたる夢は…

それから三年後の
文政四年（一八二二）に
忠敬の門人弟子達の手で
「大日本沿海輿地図」が
完成され成就されました

「夢追い人」
ゆめのお びと

伊能忠敬が夢を追って
歩き続けた十六年…
歩数にして四千万歩
距離に換算すると
約三万五千二百キロで
地球を一回りした
ことになります



忠敬の功績は
単に正確な日本地図を
つくったということだけ
ではなく…
夢をもつことによって
生じる人間の無限の
可能性をその行動で示し
私たちに大きな希望を
与えてくれました

夢をもつことが困難に
なった現代に生きる
私たちにとって
伊能忠敬の生きざまこそ
憧れであり夢であり
今 伊能忠敬が注目される
所以ではないでしょうか…



上田勝俊 プロフィール 》

昭和20年2月8日愛媛県松山市で誕生、鳥取市で育つ。鳥取工業高校卒業の後、大阪芸術大学に学び卒業の後宝椅子建設機設計課勤務。

昭和61年春鳥取にリターン。建設業界紙記者を経て平成3年運送業を始め現在に至る。

鳥取市と智頭町を結び過去3回ほど展示会を開催。主なる研究のテーマは“蔵飾り”（鏝絵）、歴史、古地図、民家など。智頭町の写真クラブに属し蔵をテーマとした数々の写真を撮影。

平成12年11月に鳥取市でも開催された“伊能ウオーク”では朝日新聞鳥取版に掲載された漫画「夢追い人」の企画をし、江戸時代の天文学をテーマとした展示会を中電ふれあいホールにて開催。

また過去、日本海新聞に36回に渡る「蔵飾り」の記事を連載。その後月刊誌「左官教室」でグラビア1ページに鳥取市近郷の鏝絵を紹介しており90回を重ねている。全国に知人多し。

岩田廉太郎 プロフィール 》

1951 鳥取市八坂に生まれる。

1970 鳥取県立鳥取東高等学校卒業。

1972 手塚治虫一門となる。

1973 小学館の『少年サンデー第10回新人漫画賞』で「西暦7251」が佳作入賞。

1975 秋田書店『冒険王』より「もうひとつの世界」でデビュー「少年探偵団」「冒険探偵クルス」「ジェッターマルス」等々連載。

1981 講談社の『第11回週刊少年マガジン月例ベスト新人賞』で「すっとび忍法帖」が佳作一席受賞。

1989 鳥取で『まんが工房』を開設。

1991 新日本海新聞に「まんがふる里むかし話」を連載。

1992 出雲新聞に「まんが出雲むかし話」を連載。

1993 新日本海新聞但馬版に「但馬むかし話」を連載。

1994 新日本海新聞に「セーフ・マン」連載。

「鳥取ふる里むかし話④」出版：新日本海新聞社。

「まんが出雲むかし話」出版：出雲新聞社。

1995 島根日日新聞に「小泉八雲シリーズ」連載。

「鳥取ふる里むかし話⑤」出版：新日本海新聞社。

1996「小泉八雲シリーズ①」出版：島根日日新聞社。

1998「小泉八雲シリーズ②」出版：島根日日新聞社。

2001「まんが私学日彰館上・下」出版：広島/葦文社